



福岡県立糸島農業高等学校
～「いのち」に学ぶ～
TEL 092(322)2654
FAX 092(323)5924

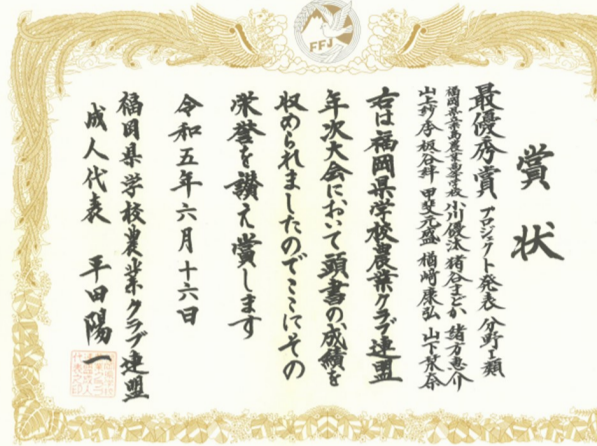


第74回福岡県学校農業クラブ連盟年次大会

九州大会出場

プロジエクト発表

〔分野 生産・流通・経営〕
最優秀 資材でつなぐ未来の根こぶ病対策
三年二組 小川 優汰さん 他7名



入賞を逃した生徒も頑張りました。

左から井手さん、小川さん、松岡さん。

『資材でつなぐ未来の根こぶ病対策』発表内容要旨

研究の動機はアブラナ科の植物の根こぶを作り大きな被害を与えている根こぶ病について生産者から学び、糸島の牡蠣小屋から出る牡蠣殻を用いてその対策技術を開発したいと考えたことです。カキガラ石灰を散布することで酸性土壌を中和し、コウジカビを用いて病原菌を分解して菌密度を下げられないか、九州大学の飯山和弘先生からアドバイスをいただきながら、効果的な散布量を求めるための実験を長期にわたって繰り返しました。人工汚染土壌を八穴のセルトレイに入れて行った実験では、対照区、カキガラ石灰のありなし、コウジカビの濃度の違いを作った七パターンの比較から、カキガラ石灰とコウジカビを一定量混ぜた場合、発病度、菌密度とも減少することが確認されました。コウジカビが根こぶ病原菌に作用しているかを調べるための特別な薬剤を用いた観察は明確な証拠を得られるまではいきませんでした。飯山先生のご指導をいただきながら今後も続けていきます。農業生産者の方々に使っていたために、コウジカビ(米麹)を鳥に食べられない工夫が必要なのでどの程度被害が出るか実験し、牛糞たい肥と米麹を混ぜてペレットにしたものが有効であることが分かりました。しかし、実際に生産者さんに使っていただくためにはコストの問題も克服しないといけないので、後輩に受け継ぎながら今後も研究を続けていきます。私たちの研究は飯山先生、農業生産者さんの協力なしでは進められません。協力いただいた皆様に感謝申し上げます。市民の皆様や九州大学の学生さんからもいつでも協力するとうりありがたい言葉をいただいているので、このネットワークを大切に、啓発活動も続けながら、今後も「糸島産の資材でつなぐ」対策技術確立するため研究を続けていきます。九州大会では最優秀賞を目指して頑張ります。

ポスター

特選
二年二組 中村 鈴香さん

県でただ一人選ばれ、第七十四回大会のポスターに採用されました。



九州大会出場 入賞おめでとう! 全国大会出場

最優秀賞
三年二組 松岡 潤さん

九州大会の先にある全国大会出場目指して頑張ってください。

農業情報処理競技

優秀賞
三年一組 早田 蓮さん

農業機械技術検定競技

〔生活〕
優秀賞
三年四組 後藤 さくらさん
二年四組 市丸 りみさん

〔食品〕
最優秀賞
三年三組 井手 孝裕さん

井手孝裕さんは昨年度に続いて二年連続の全国大会出場です。今年も全国での入賞を目指して頑張ります。

農業鑑定競技

おめでとうございます



一学期終業式

皆さん、一学期が終わり、日々の学習や実習以外にも遠足、体育祭練習、田植えなどさまざまなことがありましたが、皆さんにとってこの一学期はどんな学期になりましたか。自分を大切に、他者への思いやりをもって生活できましたか。何か目標をもって挑戦できましたか。人としてどう生きるか考えましたか。

夏休みは、部活動や農業実習で登校することもあるでしょうが、目標をしっかりと自分自身で磨いてください。交通事故に気を付け、水難や山での事故にも気を付け、コロナや熱中症にも気を付け、楽しく有意義に過ごして、八月三十一日の始業式には全員が成長した、そして元気な顔を見せてください。

体験的職業理解

六月十三日に行われた体験的職業理解には多くの専門学校から、現場でさまざまな経験を積まれた先生方にお越しいただきました。それぞれの職場で使われている道具やそれを用いた技術を教わり、楽しく学ぶことができました。講師の先生方、お忙しい中本校にお越し下さり、本当にありがとうございました。

- 製菓・製パン
- トリマー
- ホテル・ブライダル
- 調理師
- 理容・美容
- 動物看護師

一年生田植え

六月後半、梅雨の晴れ間を縫うようにして第一学年の田植えが行われました。泥んこになりながら、一生懸命苗を植えている様子が微笑ましく、笑顔で撮影にも協力してくれました。秋に美味しい「糸農米」が収穫できるよう、頑張ってお世話していきます。